

篆書の基礎学習

基本部首5種

河野 隆(かわのたかし)編

楽

篆

堂



本書の内容

⑮ 儿(キ)	⑪ 入(シュウ)	⑥ 亅(テツ)	① 一(イツ)
⑰ 凵(カン)	⑫ 八(ハツ)	⑦ 二(ニ)	② 丨(コン)
⑱ 刀(トウ)	⑬ 冂(タイ)	⑧ 乚(タイ)	③ 丨(コン)
⑲ 力(リョク)	⑭ 冂(ヘキ)	⑨ 人(ジン)	④ 丨(コン)
㉑ 勹(ホウ)	⑮ 彳(ヘイ)	⑩ 儿(ジン)	⑤ 丨(コン)

【篆書の基本】

篆書の特徴
基本点画の書き方
運筆の様子
運筆・結体上の留意点
字形と筆路
学習のポイント

【篆書基本部首】

- 1、北宋 徐鉉
 - 2、清 楊沂孫
 - 3、清 趙之謙
 - 4、清 吳大澂
 - 5、民国 王愷
- 【説文解字の基礎知識】
【篆書の歴史ダイジェスト】

「基本点画の書き方」

① 筆・墨・紙
筆はごく普通の兼毫中鋒がこなしやすい。左の図版の筆は、二千円程度の四号の兼毫筆である。墨は濃いめにし、紙は使いたれたものでよいが、にじみ・かすれの激しいものは抜いにくい。

② 用筆(逆筆・藏鋒)
筆先を包み込むように折り返す。逆筆は、起筆部の逆筆・藏鋒をマスターしなければならぬ。筆を折り返した時に筆先に力がこもり、線のはしはしまで充実感が出るようにすることが大切である。

③ 連筆(中鋒)
筆運びで大切なことは、筆をまっすぐ立てて筆芯が常に線の中心を通り、線に表裏が出ないようにすること。これを中鋒という。一本の線が同じ速さ・同じ太さで安定して引けるようにしたい。

④ 線質
始めから終わりまで一様な太さで抑揚をつけない無機質な点画が篆書の特徴である。線の底からじわじわと湧き上がって来るような、力こもった素朴で豊かな線質をめざしたい。

⑤ 水平感覚(左右相称)
横画を水平に引き、形を左右相称に仕上げるにはかなりのトレーニングが必要である。書き終わったら裏返して見ると、表からは気がつかないバランスの乱れや自分の癖がよく把握できる。

- B5判 96ページ 晨風会出版局発行
- 書店でのお取り扱いはございません。楽篆堂の直販のみです。

お支払いは郵便振替による後払い制です。
お問い合わせ・ご注文は楽篆堂まで

『篆書の基礎学習』基本部首5種

定価 **1,714**円+税 送料別

楽篆堂 東京都大田区北千束2-17-13 〒145-0062
TEL. 03-3729-0543 FAX.03-3729-9269
E-mail rakutendo@sankeisha.co.jp
【出版情報】 <http://www.sankeisha.co.jp>